



FAAでは、事故時の搭乗者への衝撃を軽減するため、小型航空機にエアバッグ付シートベルトの装備を推奨している。

エアバッグ付シートベルトの概要

1. 事故時の衝撃のような大きい前方への荷重が加わるとエアバッグが展開する。
(乱気流やハードランディング時は作動しない。)
2. エアバッグは搭乗者に向かって展開しないので、チャイルドシートを必要としない子供にも安全に使用できる。
3. エアバッグ付シートベルトの製造者のテストによると、シートベルト自体（ハーネス）への加重は40%軽減される。



エアバッグ付シートベルトの効果

1. 機体への衝突を軽減
2. シートベルト自体への荷重軽減

これらの効果により、致命的な負傷を避けることが可能であり、救助されるまで生き延びることができれば生存率は伸びる。



例: 通常では搭乗者の生存は望めない事故だったが、パイロットは負傷したものの生還した。



例: 機体は失速・横転したが、パイロットは致命的な負傷を負わずに脱出した。

FAAは、2005年から2010年の間に、アラスカ地域で起きた事故について、エアバッグ付シートベルトが装備されていたら、事故で死亡した搭乗者113名のうち、50名は助かったとの結論を出している。

我が国での装備状況

- ✓ 最新の小型機では、製造時からエアバッグ付シートベルトを導入している機体もある。(セスナ式172S型など)
- ✓ 我が国のSTCを取得した製品がある。
(セスナ式172R型、172S型 (Amsafe社製) など)
- ✓ 前述のAmsafe社製のシートベルトを装備する際は、機体への大規模な改修は必要ない。